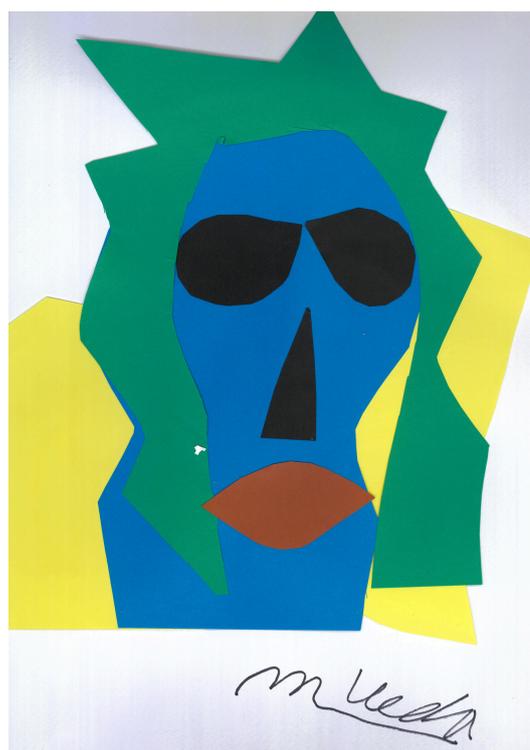
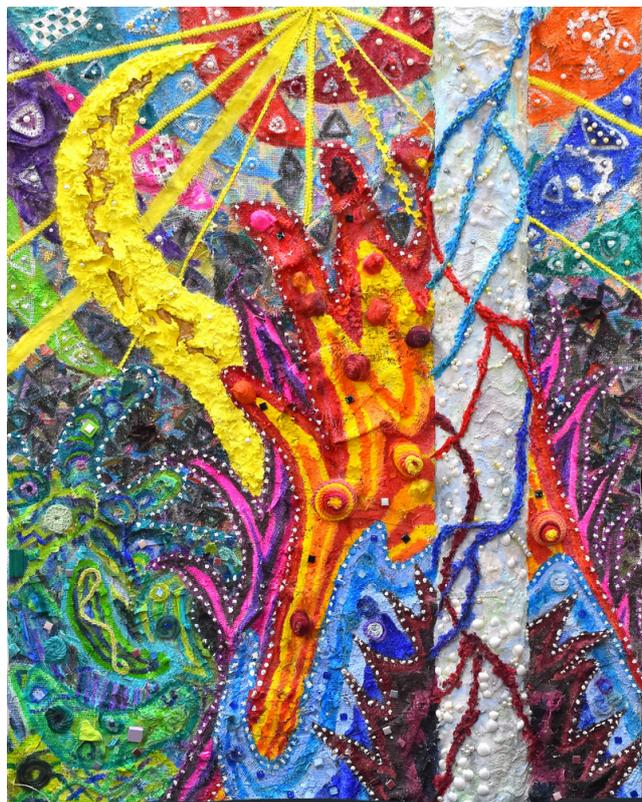


令和6年度 熊本県障がい者

# 芸術文化活動普及支援 事業報告書

ART BRUT PARTNERS KUMAMOTO



---

# 目次

---

## 01

はじめに

## 02

地域の現状と課題

## 03

事業実績

- 03 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10
- 04 韓国との交流事業
- 05 人材育成研修、アール・ブリュット移動美術館
- 06 連携事業(マルシェ、美術館、劇場、つなぎ美術館)
- 08 ギャラリーウォール
- 09 ギャラリーウォール ワークショップ
- 10 講演・報告の実施 / 作家・作品の調査・発掘
- 11 相談支援
- 13 評価・発信、メディア、ネットワークづくり
- 14 本事業に関わる第三者評価
- 15 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(韓国)
- 18 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(熊本)
- 20 展覧会来観者の感想(抜粋)
- 22 理事・役員・事務局 名簿



## はじめに

---

日頃より障害のある人々らの芸術活動支援に、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。この度、令和6年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業報告書を作成しましたので、ご一読頂ければ幸いに存じます。

本年度、熊本県立美術館本館第一展示室で開催された生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 には、11日間で 1,672 名の方々にご来場頂きました。10 周年の記念事業として、これまでの足跡を辿る図録も作成致しました。多くの方々に作品の魅力を発信できたことは大きな意味があることです。また、作家の皆様をはじめ、関係者の方々には多大なご協力を賜りましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

これからも、沢山の方々のご指導を賜り、障害のある人々らの芸術活動の振興に努めていきたいと存じます。

社会福祉法人 愛隣園  
アール・ブリュット パートナーズ熊本

## 地域の現状と課題

### （現状）

県内では、コロナ禍前のように、各種イベントに賑わいが戻ってきており、美術館や劇場といった文化施設では新しい取組を実施する動きもみられる。また、他分野とのつながり・協働を求めており、中間支援としての調整機能の役割への期待が高まっている。

創作を続ける作家や家族・支援者からは、作品の購入希望があれば売りたいという声が大きくなっている。その理由として、経済的な自立と社会参加の願いとともに、家や事業所での保管場所の問題も絡んでいる。

事業継続が実を結び、支援センターの認知度の高まりとネットワークが拡がり、他団体が主催する事業からの協力要請が増えている。

### （課題）

積年の課題となっている作品の保管問題に対し、当方も協力とアドバイスを続け、家族や事業所ごとに工夫しているものの根本的な解決には至らず、持続可能な解決策が必要だと言える。同様に、作品売買や二次利用等についても、作家・家族・支援者のニーズとなっており、そこには作家の利益を守る社会の意識定着という別の課題も含んでいる。

## 事業実施により得られる効果、めざす成果

事業実施により、次のような効果の獲得と成果を目指し、最終目標である「障害のある人々が生きやすい社会」を実現していく。

①専門家が評価する優れた作品に触れることは、障害のある作家と関わる機会にもなり、正しい障害理解や価値観の変容をきっかけに、差別解消につながっていく。②継続事業は回数を重ねるごとに事業の質と認知度を高め、障害のある人々の芸術活動を県民がそれぞれの形で応援する地域社会の雰囲気を作りだしていく。③県民のこういった動きは障害のある人々を地域社会で自然に受け入れること、社会で正当に評価されることにもつながり、地域共生を推進できる。

# 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10



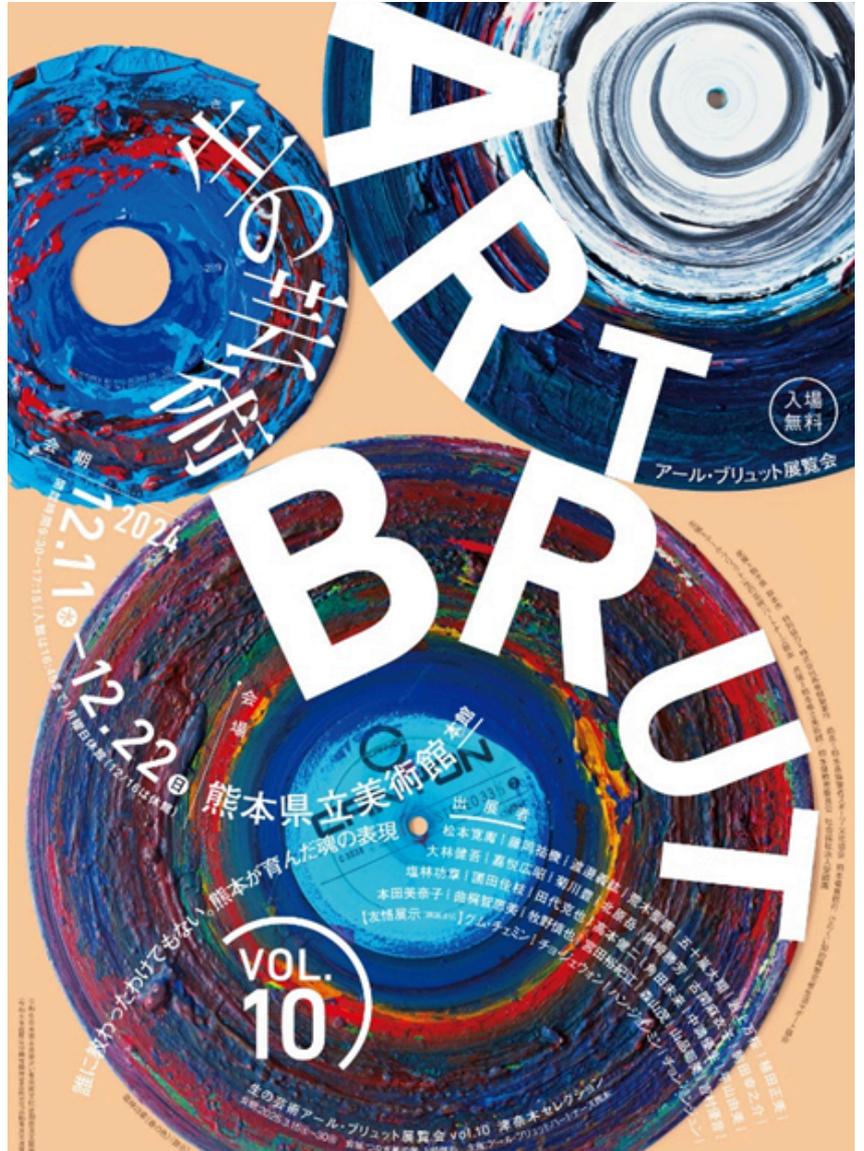
ギャラリーツアー



作家ライブ



開会式テープカット



令和6年12月11日～12月22日  
熊本県立美術館 本館 第一展示室

総来場者数1,672名  
アンケート回答数118件  
開会式、ギャラリーツアー  
県内7事業所のグッズ販売  
県内28名の作家。約220点を展示

# 韓国との交流事業

令和6年12月11日（水）11:30～

生の芸術Art Brut展覧会vol.10には友情展示として、韓国の4作家8作品を展示しました。展覧会初日に、韓国から10名の来場に合わせて、熊本の作家との交流会を開催しました。



令和7年1月13日（月）

展覧会で展示した作品の返却と韓国の芸術活動支援団体との交流を目的に、事務局スタッフが渡韓しました。



# 人材育成研修

熊本県内で、芸術活動支援に意欲的に取り組んでいる2事業所から実践報告をして頂きました。

日時：令和6年6月7日19:00～

会場：くまもと県民交流館パレア 会議室1

登壇者：サニーサイド 施設長 宮崎嗣大 氏  
生活支援員 大森天登武 氏  
平成学園 生活支援員 茶屋孝浩 氏  
生活支援員 寺本奈央 氏



Mobile Museum

# 移動美術館



やまがアート

① 10/26-11/3  
やまがアートin YAMAGA BASE

② 11/11-11/15  
熊本県庁 レプリカ+展覧会ポスター

※やまがアート

山鹿をアートの町に、アートを身近なものにをコンセプトに、毎年、10月最後の土日から11月3日まで、閉校した学校を使ってアート展示とステージ発表、マルシェ等の総合イベントです。

# 連携事業

## ○やまがマルシェ

地元のまちおこし団体からの要請を受け、マルシェに出展。ポストカードやTシャツ等のグッズ販売と団体の広報を行いました。

令和6年4月28日 あんずの丘



## ○熊本市現代美術館「ライフ2展」(10月5日-12月8日)

熊本市現代美術館主催の「ライフ2展」に本会登録作家4名が選出され、調査や情報提供等で協力しました。また、オープニングとオープンアトリエには、作家の同行支援を行い、円滑な運営となるよう連携しました。



## ○熊本県立劇場 文化事業評価委員会 (10月10日、3月11日)

熊本県立劇場の文化事業評価委員として、県劇主催事業の視察とアドバイスをを行い、文化事業の推進に寄与しました。

# 連携事業

## 生の芸術ArtBrut展覧会vol.10 津奈木セレクション展



令和7年3月15日～3月30日  
つなぎ美術館  
県内12名の作家。約90点を展示。

## つなぎツアー

令和7年3月16日

参加者：作家・家族・支援者等 19名



# ギャラリーウォール

4月1日～	中満優生 作品展	230名
5月1日～	レプリカ展	131名
6月1日～	ゆうあい園 さをり織り展	214名
7月1日～	愛隣館デイケア陶芸展	230名
8月1日～	灯籠Tシャツ展	235名
10月1日～	ぴあぴあライブラリー	275名
12月1日～	ゆうあい園 さをり織り展	178名
1月7日～	レプリカ展	276名

合計1,769名



## スタッフの声

- 今年度の展示は個人の展示が少なかったが、レプリカ展示などをして頂いた。展示物があるのと無いのでは雰囲気は全然違います。
- ワークショップの企画・実施は良かったと思います。
- 出展者の関係者の見学は多いですが、一般の方は気にしながらも通り過ぎていく方が多く、気軽に 入れる雰囲気づくりも必要かなと思いました。
- ミュージアムショップミニ版（今までの作品を集めた）みたいなものも楽しそうな気がします。

# ギャラリーウォール ワークショップ



## ○粘土体験ワークショップ（令和6年7月13日）

ギャラリーウォールは展示の場だけではなく、交流の場としての活用を目指しています。3回目となる粘土体験のワークショップでは、児童が参加しやすいように、ボッチャ体験やレクリエーションを導入し、児童同士の自然な交流を図りました。

### 参加者の声

初めてだったのでなかなか上手くできなかったけど、作るものが決まっていたこともあり、満足いくものが出来ました。次回は、自由に作ってみたいです。



# 講演・報告の実施

1. ギャラリーツアー（12/11～） 本展覧会キュレーター 楠本智郎 氏  
オンライン配信（12/18～）
2. 障文芸ネットワークフォーラム（2024.2.7-9） びわ湖ホール  
「全国身体障害者支援施設協議会 会員施設が事務局を務める芸術活動支援」  
アール・ブリュット パートナーズ熊本 事務局 納富久



ギャラリーツアー キュレーター 楠本智郎 氏



# 作家・作品の調査・発掘

作家・作品訪問調査 50件  
情報提供による作家発掘 13件



# 相談支援



貴会登録作家の作品を本美術館展覧会で展示したい。情報提供や訪問調査等に協力してもらえるか。（美術館スタッフ）

本会で出来る限りの協力する旨を伝え、情報や画像提供、作家の調査日程の調整を行った。

選出された展覧会のオープニングに作家本人と酸素ボンベが必要な母も参加したいが、不安があるので、同行してもらえると安心して参加できる。（作家家族）



自宅までの送迎や車イスの貸し出し等、安心して参加できるよう同行して作家と家族をサポートした。



住宅展示メーカー協議会との繋がりがあり、インテリアフェアで展示販売をできないか。（企業）

何度も打ち合わせを重ね、額装入りレプリカと数点の原画の展示販売を次年度に行う流れができた。

自身の子どもは障害がありながらも、表現活動を行っている。本会のことをホームページ等で知ったので、詳しい話を聞かせてほしい。（一般）

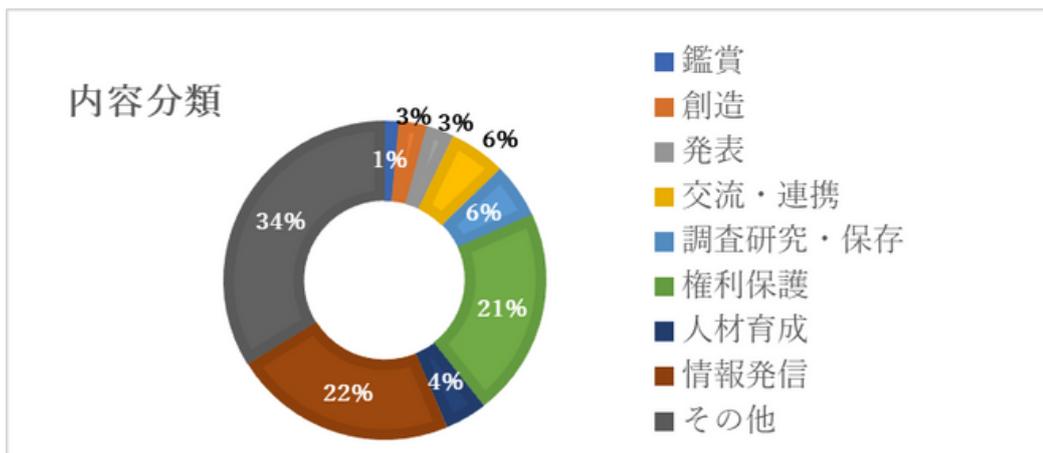
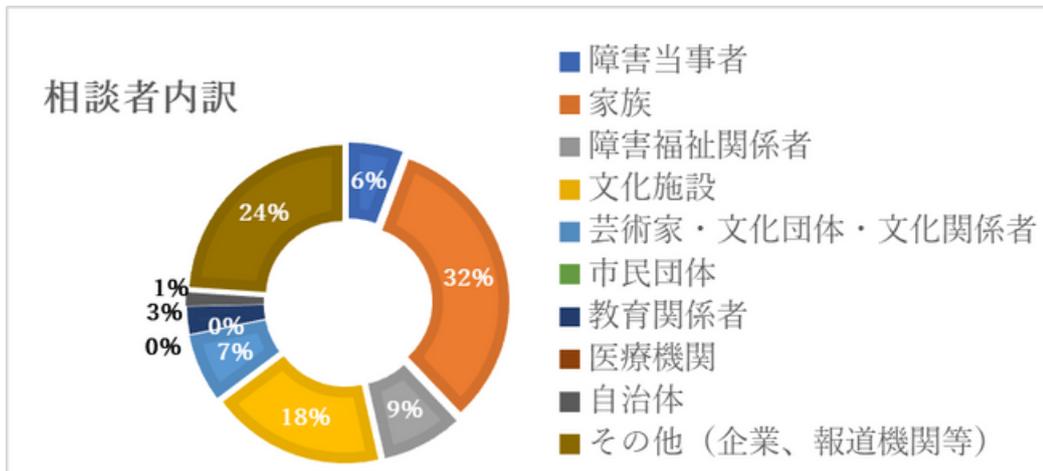


本会の活動や展覧会までの大まかなスケジュール等を説明し、興味を持ってもらったなら作家登録する旨を伝え、登録に繋がった。

# 相談支援

## 連絡調整件数

情報提供、日程調整メール、会員メール（情報発信 29件）  
相談件数 76件（作家・家族・支援者・企業等）



本年度、相談者内訳での家族相談割合が昨年16%から比較して32%と大幅に増えた。これらの背景には、今年で10回目を迎えた展覧会が地域社会にしっかりと根付いたイベントとして認識された事や開催中も作家や家族、観覧者による交流を通して繋がりができた事で、様々な事務局への個人相談が増えた事が考えられる。作家紹介をはじめ、個展や売買、展示に関する事など専門的知識が必要な場合は、その都度ネットワークを通じて対応してきた。また、企業・報道機関からの問い合わせも増えており、異なる立場の人々が協働で課題に取り組み、新たなアイデアを創出している。今後の可能性や取り組みに期待したい。

次に内容分類で目を引くのは、作家や家族、支援者から、作品保管や販売などを含む、権利保護に関しての相談が増えていることである。これからも専門機関に繋ぎながら、相談者に寄り添った適切な対応が必要となる。また同時に、芸術活動支援センターの役割として、九州・全国の取組など情報収集・発信も行っていく。今後、更なる多様性が広がる地域社会に求められる機関として、より発展させていきたい。

# 評価・発信・メディア

ウェブサイト 本事業に関する記事  
投稿数 11件



アール・ブリュット パートナース熊本



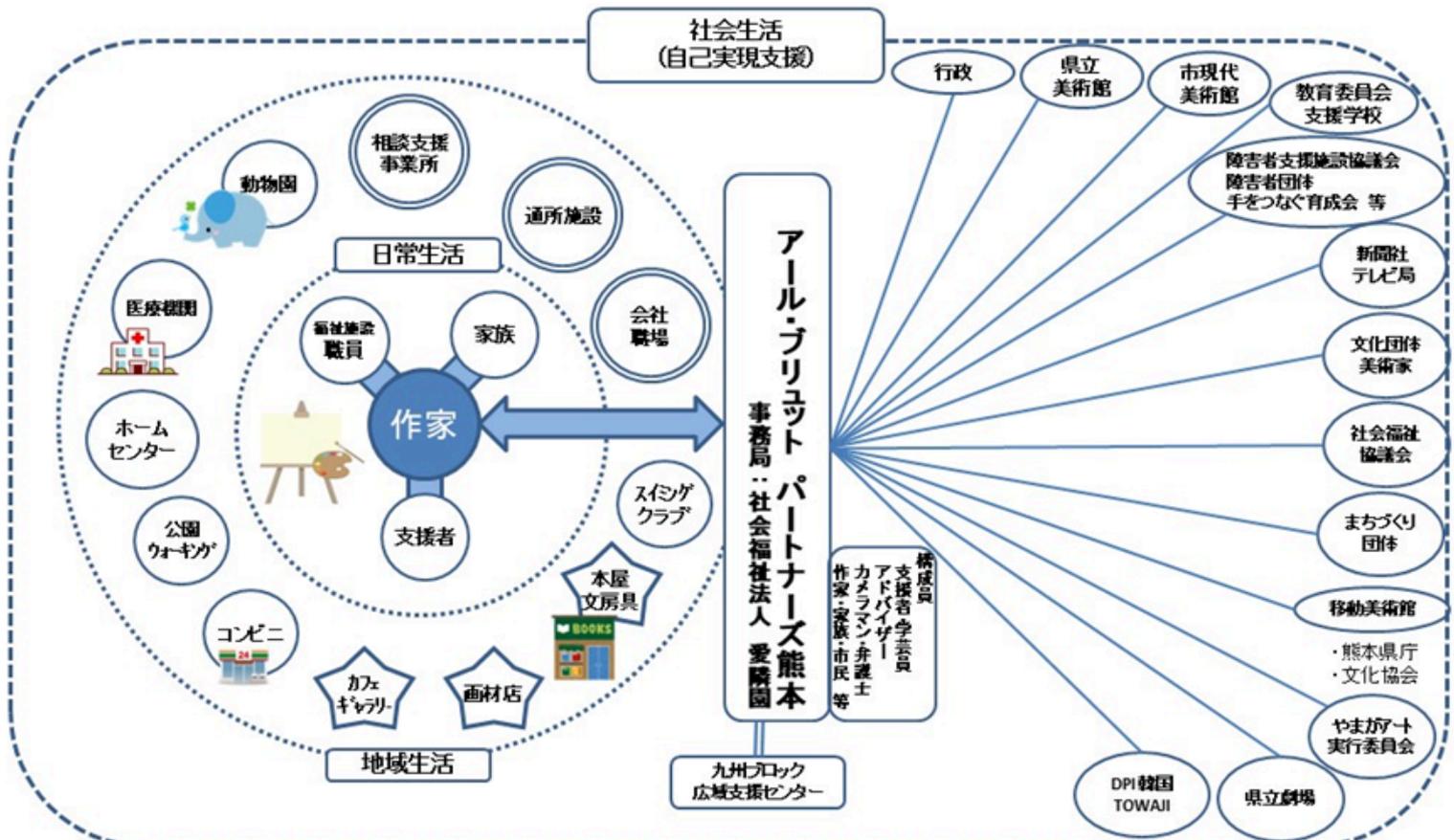
テレビ放送 1回 (NHK)  
新聞掲載 3回 (熊本日日新聞)

Networking

## ネットワーク作り

### 地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2024

☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が市民団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激しあい高めあっていく(相互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



## 本事業に関わる第三者評価

---

### 県内の方々との意見交換より

#### 1. 展覧会のキュレーション担当のつなぎ美術館キュレーターより

「昨年度と比較して出展作家の人数が増えたことや節目に開催するグループ展としてアール・ブリュットの多様性や現状を観覧者に知ってもらうことに重きを置いたため選出の基準づくりが難しく、決定までに時間を要した。本展で作品が展示されることはたしかに作家や家族の励みにはなるが、選ばれることを目的に制作するようになると良い作品は生まれない。作家が自身の魂に忠実に制作できるような環境づくりにも力を入れる必要性を感じた。」

#### 2. 展覧会ポスター等を担当したデザイナーより

「展覧会初日の開会式などでお見かけする、作家さんやご家族の嬉しそうな表情や緊張感から、また今回は10回目の開催を祝福するメッセージパネルにつづられたメッセージや思いからも作家さんやご家族が、本展や創作に込める思いや誇り、または期待などを感じました。勝手ながらこれからも、さらに自由な創作や作品が生まれ皆様の活力につながることを期待しています。また、ポスターデザインなどをとおして微力ながらそのお手伝いができていたとしたら光栄です。」

#### 3. 展覧会で物販を担当したショップ店員の方より

「Art shopを訪れる方の多くは、やや興奮気味に鑑賞後の感動等を共有してくださいます。今回最も印象に残ったのは、「多くの美術館では静かに鑑賞することを求められるけど、ここは作品をバックに同行者と写真を撮ったり、おしゃべりしながらまわるととても楽しかった」というお客様の声です。観る側にとっても型にはまらない、何かが解放される心地よい空間。生の芸術を“生”の自分で自由に鑑賞できる展覧会ということでしょうか。ご来場者様との会話を楽しみながら販売に当たらせていただきました。ありがとうございます。」

### 県外の方々との意見交換より

#### 1. 展覧会場作りに協力頂いている福岡のインスタレーションアーティストより

「コロナの影響下で控えめになっていた作家のみなさんや各施設の調査も充分に行えるようになり、展示のための準備などもスムーズに運ぶようになりましたが、毎度のみなさんのご対応に感謝しておりますし、垣間見ることができたことに心打たれる機会が少なくありませんでした。また、特に作家のみなさんの創作を続けられるエネルギーには圧倒されることもありましたが、あわせてご家族、支援者の方々には頭が下がる思いでした。次回の会場制作や展示をとおして、みなさんと再会できることを楽しみにしています。」

## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(韓国)

### ○ Chon Min jun チョン・ミンジュン

こんにちは。私は前回熊本県立美術館で開催した第9回ART BRUT展に作家として参加したチョン・ミンジュンです。

まず、素敵で伝統のある展示会に招待作家として参加して、私の作品を展示できるようにして下さった主催側に感謝します。

絵を描き始めて1年にならない私がこんなに大きくて素敵な展示会に、私の作品を他の素晴らしい作家たちの素敵な作品と同じように展示されることになって、とても良い経験であり、機会があれば私が描いた他の作品も展示をして他の人にも見せたいです。

今回の展示会に参加し、また他の作家たちのすばらしい作品を観覧しながら新しい作品について勉強をする良い機会でした。これを通じて新しいインスピレーションを得ることができる非常に良い経験でした。

他の作家たちの作品の中で、材料と素材の多様性と表現のユニークさを見るようになり、絵を描き始めたばかりの私としては、今回の経験が大きな財産になりそうです。

絵や作品を通して自分自身を表現し、世界とコミュニケーションし、社会のメンバーとして役割を果たすことができる貴国の環境が非常に良い点だと考えられ、このような機会を提供し続ける主催側にも非常に感謝しています。

このような経験を、私を含む他の発達障害者にも多く与えてほしいというのが願いであり、継続的な交流行事が行われてほしいです。

ART BRUTの展示会が継続的に維持され、さらに進化することを心から応援しています。

### ○ JAEWON CHOI (チョ・ジェウォン)

ARTBRUTVol.10熊本展示会に行ってきた

展示会に選ばれて本当に良かったです。日本人は絵を一生懸命に描き、とても親切で、きれいで、気持ちを良くしてくれました。展示会に私の絵も展示されました。気分がとても良かったし、私の絵を展示して下さって感謝の気持ちになりました。

グム・チェミン、チョン・ミンジュン、ハン・ジョンミン、そして日本の友達や日本の作家たちの作品を見ることは本当に面白くて本当に楽しいことだったし、作品一つ一つ全部格好良かったです。私とミンジュンとジョンミンと一緒に頑張って絵をたくさん描こうと言いました。そして、阿蘇山で火山も見えて観光もたくさんしました。たこ焼きや焼きそば、うどんや生クリームデザート、日本茶を飲んだりして楽しく旅をしました。

バスと一緒に乗って旅行する時間が楽しかったです。熊本空港から免税店も行き、コンビニも行き、空港でも楽しい時間でした。家族と一緒に飛行機に乗って無事に韓国に帰ってきました。

来年もアール・ブリュットvol.11展覧会に、トワジの家族と一緒に熊本県立美術館の展覧会に行きたいです。猫の絵をたくさん描かないといけませんね。

## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(韓国)

### ○ Kim Yeon kyeong (Park Sung ho' mother) キム・ヨンギョン(パク・ソンホの母)

こんにちは。第9回ART BRUT展示会に友情展示した韓国の作家パク・ソンホのママです。日本アール・ブリュット展を考えると、最初に思い出すのが展示関係者の皆さんのおもてなしでした。外国での展示が初めてだったソンホや私は率直に日本語もできず、展示会場も見慣れず不安な気持ちが大きかったです。しかし、私たちを迎えてくださった関係者様が、私たちの数人のために通訳も用意してくださり、展示空間も県立美術館という有名な場所に広い空間まで用意していただき、プレゼントも用意していただき、不安な心を震わせて快適に展示して楽しむことができました。ポスターにソンホの名前まであることを聞くと、もっと誇りに思って、ソンホもとても好きでした。

展示場で見た熊本アール・ブリュット作家たちの作品レベルが非常に高く、特にソンホはポスター絵を描いた中満優生さんの作品が気に入っていました。

他にも、素敵な作品のように展示され、光栄で素晴らしい機会を与えてくれたアール・ブリュットパートナーズ熊本会長様や関係者に感謝の気持ちを伝えます。

一生懸命作業して、第10回ART BRUT展示会にまた参加したいと思います。

### ○ Jeong Jeong ae(Han Jeong min's mother) チョン・ジョンエ(ハン・ジョンミンの母)

2024年12月11日、熊本県立美術館で開催されたアール・ブリュット展に、ハン・ジョンミンの作品2点が出品され、意義深い一日を過ごしました。アール・ブリュット展は、障害を持つ作家たちが自分の作品を披露する場であり、ジョンミンがここに参加できたことを誇らしく、嬉しく思います。展覧会のオープニングセレモニーに参加し、多くの方々とともに作品を鑑賞しました。ジョンミンがこれまで努力してきた成果を見せることができ、とても喜ばしく感じました。ジョンミンの作品に対して、日本の作家や観覧者たちが関心を示し、質問をしてくださり、ジョンミンは言葉でうまく伝えられなくても、その場を心から楽しんでいる様子が伝わってきました。特に日本の作家たちと作品の前で一緒に写真を撮り、笑顔を見せるジョンミンの姿は本当に幸せそうでした。

ジョンミンは展示会場を巡りながら、他の作家たちの作品も鑑賞しました。特別な説明がなくても、ジョンミンが展示会を楽しんでいることが感じられました。作品を通じて人々と交流し、他の作家たちとつながるこのような機会が、ジョンミンにとってどれほど大切な時間だったのかを思うと、私の心も温かい感動で満たされました。

今回の展覧会は、ジョンミンと私に喜びと素晴らしい思い出を与えてくれる時間でした。これからもジョンミンがさらに多くの展示機会を通じて、多様な出会いと経験を積み重ね、作家としてますます成長していくことを期待しています。

## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(韓国)

○ Kang Sang wook(Kang Won jin' father) カン・サンウク (カン・ウォンジンの父)  
熊本県立美術館で受けた招待は、私たちの家族に大きな感動を与えました。真冬が暖かく感じられるほど、関係者の皆さんの丁寧で情熱的な準備にもう一度感謝し、日本の作家の方々の真剣で多様な作品に触れながら、彼らの努力に感動するようになりました。もっと嬉しかったのは、作家の一人である藤岡祐機さんが直接現場で作品を作って韓国人作家の家族にプレゼントしてくれたことです。小さくて軽い作品ですが、海を渡って韓国でも多くの方が彼の作品に共感する機会になってほしいです。私たちの家族も帰ってきて、オマージュのようにユウキさんの作品に挑戦してみました。簡単ではありませんでしたが、薄い紙一枚一枚が空に向かって飛ぶ鳥の羽のように感じられました。これが集まり、多くの人々に作家の心を伝える大きな翼になることを祈ります。それで両国間の交流活動が今後も着実に続くことを望むようになりました。ありがとうございます。



## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(熊本)

○松本寛庸さんのお母様より

「10年を振り返って、いつもありがとうございます。

息子は毎年選ばれて、展覧会を楽しみにしています。新しい作品が県美に展示されるか気にするなど、アール・ブリュット展が毎年続いていることが描くことのモチベーションにつながります。息子が制作を続けてこれた要因かなと思います。そこに在ることで、他県の美術館などにも声をかけて頂きます。そこから、本の表紙への採用など、色々な機会につながっています。

10年前、故桜井現美術館長と蔵座さんのお世話で、上野の森VOCA展に出展できました。そして、2021年には真武キュレーターのご推薦により、2回目のVOCA展出品がかないました。細やかに応援頂き感謝しています。

地元のやまがアートの時には、いろんな人が声をかけてくれます。他の作家さんのインスタグラムも楽しんでいます。

これからの願いと夢は、まず、多くの作品の整理・分類と保管です。それから作品を用いて収入につながるような仕事として成り立つ仕組みが願いです。個展をする夢もあります。これからどうぞよろしく願います。」

○藤岡祐機さんのお母様より

「『アールブリュット展』10周年、おめでとうございます。

この10年間、熊本の作家たちを支えて頂き、本当にありがとうございます。

思えば、山鹿の『八千代座』から始まり、あれあれ〜という間に、誰もが夢見る熊本県立美術館の本館開催。スゴいの一言。

我が家も毎年、この展覧会に選ばれる事を楽しみに過ごしています。

1年間のうちの2週間。祐機が輝いている14日間です。

普段のお出かけは、周りに気を使い、手を繋ぎ、何かあるたびに頭を下げる事ばかり。でも、この展覧会に向かう時だけは、親子で心健やか、足取り軽やか(∩o∩)。

受付で『今日もありがとうね』と、いつもの笑顔に迎えられる祐機は、ちょっと手を上げて『さあ、仕事だぞ』(∩o∩)とばかりに、25年間切り続けてきた匠の技(笑)を披露。

ハサミの根元からは『見たことのないもの』が生まれ、見てもらえる作品たちも、喜んでいます。

来館者の方からは『テレビで見ました』『昨年も来ました』、中には『大きくなりましたね』と、お声掛けされる事もあり、アールブリュットの広がり年々感じます。

こんなに心地良い場所があることに心から感謝しています。

10年という長い継続。コロナ禍でも開催されましたね。

いつも、『私たちは素人集団ですから』と笑っておられる事務局長の三浦さん。いいえ〜、回を重ねる度にチラシは立派になり、大きくなり(笑)。スタッフの皆さんの梱包は丁寧さを残しつつ、手早くなる。

美術配送の方に見えるのは私だけ?(笑)。

## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 レビュー(熊本)

---

集荷、準備、設営、撤収、返却...

どれをとっても神経を使うものばかりで、目に見えない裏方の作業を一手に担ってこられたスタッフの皆さまへの感謝の気持ちは言葉では言い表せません。

そして、パートナーズの皆さま、作家、家族の皆さまとご一緒する時間を重ねる度に思うことはひとつです。

『熊本の作家』で良かった。

次は、この熊本の展覧会を全国に巡回してくださいね。」

○渡邊義紘さんのお母様より

「アール・ブリュット展 vol.10 おめでとうございます。

この区切りから vol.20、vol.30 と続いていくことを祈念しております。

思えば、一語も言葉を発しない。おまけに拒食で全く何も食べない(今はうるさい程しゃべり、食べ過ぎなくらい食べますが)無表情な子に何か反応してくれることがないかと、手さぐりで色々な事をやってみました。

そして辿り着いたのが「切り絵」と「折り葉」です。

いつの間にか 30 年も経っていて過ぎ去る歳月の早さに改めて驚きます。

拙かった作品も年令と共に成長し現在に至っています。「折り葉」も「切り絵」も完成度は高く、これ以上は私の助言も手助けも不要だと思うこの頃です。

これから先 ある日突然ハサミを持つことを止めるかも知れません。

折ることを止めるかもしれません。

または生涯作り続けるのかも知れません。どちらでも構いません。

母亡き後も何かしらの生き甲斐を持って生きて行って欲しいと願うばかりです。

義紘の手から生まれる「折り葉」や「切り絵」を愛し応援して下さる皆さんに 心から感謝申し上げます。」

## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 来館者感想(抜粋)

○今回「生の芸術アール・ブリュット展覧会 VOL10」で沢山の方の作品を知ることが出来ました。近年障がいのある方の生み出す芸術作品が注目されていると知っていましたが、実際に目にする機会が中々無かったので見に来ることが出来、それぞれ違った作品で、たくさんの面白く興味深いと感じることが出来ました。楽しんでこれからも創作を続けて欲しいです。

○作家の方々もすごいです。周囲で支えられていらっしゃる方々、ご家族の支えや才能を見出して伸ばすための努力には頭が下がります。全てを受け入れていらっしゃる姿勢を見習いたいです。

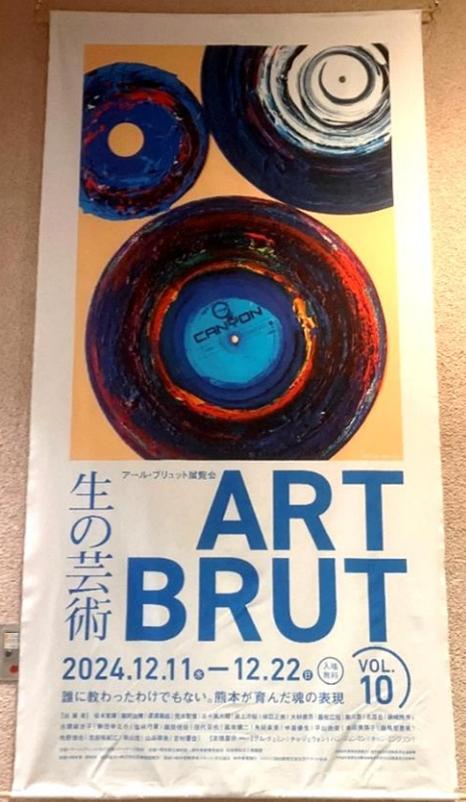


○切り絵の大作もみたかった。感動するから、ドキドキ元気になりました。生み出す素直なピュアな心がすてきです。全ての事にむだはない。生きているっていいな。でも大変もあるけど。

○とても面白かったし感動します。この展覧会、どの展覧会より好きです！

○色々な個性がある作品がたくさんあって、見ていてとても楽しい気持ちになりました。絵だけでなく、紙を切った作品や新聞紙を巻いた作品などもあってアートは綺麗な絵や漫画のようなイラストだけでは味わえないものもあるんだなと思いました。

○5年ぶりに会場にきました。その時より広々としたスペースの中で素晴らしい作品がその素晴らしさを引き出すように展示され、じっくり堪能することができました。多くの作家さんの知名度があがり、活躍されていることも嬉しく思います。これからさらに多くの人に見てもらい世に出ていく方が増えていくことを楽しみにしています。



## 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.10 来館者感想(抜粋)

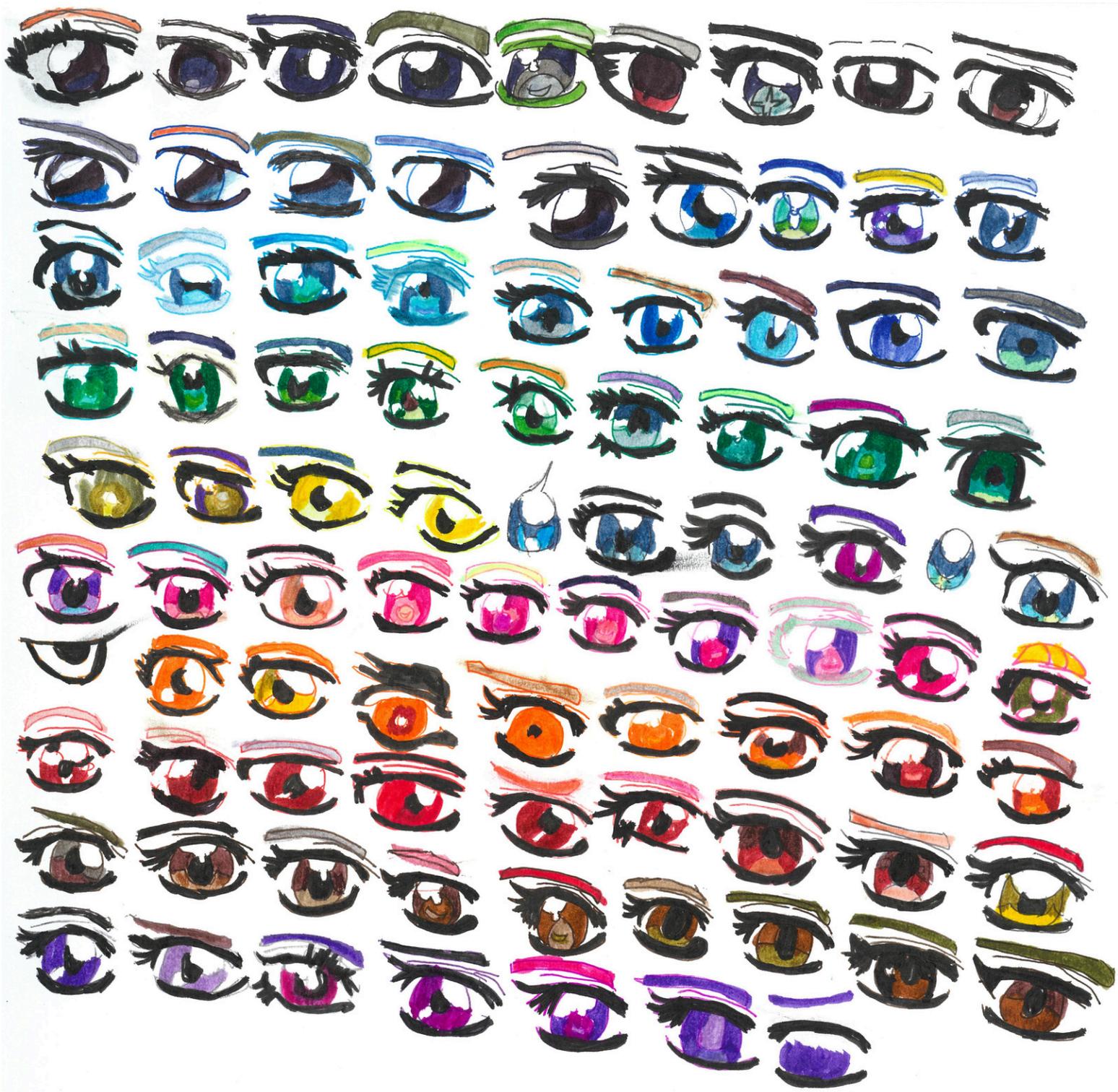
- K 様寒い日だったけど絶対今日(12月15日)しか見に行けないと思ってきました。そしたら、一番最初に展示してありましたね。今年の方が多かったようですが、私は木パネルに描いたものが一番好きです。ライフ2も見に行きました。いろんなところに出展すると、他の人との出会い、作品も見れるのでいいですね。これからも応援しています。
- T 君の繊細な表現が素晴らしかったです。特につまようじで作る作品もユニークで楽しかったです。身の回りの様々なものを材料に使っている点も日々アートに増える素敵な毎日なのだろうと想像されます。
- 美術のことはよく分からないが、何か力をもらった。緻密な部分には驚かされたし、大胆な表現には迫力を感じた。また色使いや描き方にハッとさせられたり、いろいろと脳が刺激を受けた。素晴らしい展示会が今後とも続いていくよう応援したいです。
- 支援学校に勤めています。子ども達の可能性をもっと引き出せるのではないかと思いながら見させていただきました。引き出すというのはおこがましいかもしれませんが一緒に楽しい経験をたくさんしていきたいと思いました。
- 感動して胸が熱くなりました。私には幼い息子が二人います。育てにくさを感じていますが、何か才能を見つけること、もしくは夢中になれる好きなことを見つけられるといいなと思いました。ありがとうございました。
- 今回3回目?の来場です。毎年楽しみにしていて新しい作品をみたり、同じ作家さんに出会うのが嬉しいです。いろんな場所でいろんな機会にたくさんの方に見て頂きたいといつも思います。主催者の皆様、作家の皆様いつもありがとうございます。
- どれも素敵な色使いで元気をもらえました。T 君の作品をショーケースの中で見れてうれしかったです。好きなことがあるT 君はとても素晴らしい。これからのT 君の強みになりますね。又次も見に来ます!
- 何の先入観もなくとても胸の躍る作品ばかり何より楽しく拝見しました。表現というものの核の部分に自分は感動するのだなあとあらためて思いました。全ての芸術というのを見る目が少し変わりました。ありがとうございました。
- とても素晴らしい作品ばかりで楽しく拝見させていただきました。作家さんの情熱、個性はもちろんのことそれを引き出し表現の場を準備された全ての方に敬意を表します。

アール・ブリュット パートナース熊本 理事・役員名簿

	役職名	氏名	所属団体及び役職
1	会長	西島 喜義	熊本市 元副市長 熊本市シルバー人材センター 理事長
2	副会長	安達 憲政	熊本日日新聞社 前編集員 熊本大学文学部非常勤講師
3	副会長	林田 直志	公益財団法人 永青文庫 常務理事
4	理事	栗崎 英雄	熊本県知的障がい者施設協会 前会長 (第二つつじヶ丘学園)
5	理事	平野みどり	DPI(障害者インターナショナル) 日本会議 議長 (ヒューマンネットワーク 熊本)
6	理事 事務局長	三浦 貴子	熊本県身体障害児者施設協議会 会長 (愛隣館)
7	監事	川村 隼秋	熊本県手をつなぐ育成会 顧問
8	監事	塘林 敬規	熊本市社会福祉施設連合会 事務局長 (大江学園)
9	アドバイザー	藏座 江美	一般社団法人金陽会 理事 元 熊本市現代美術館 主任学芸員
10	アドバイザー	岩下 勉	熊本日日新聞社 業務局次長 ビジネス開発本部長
11	アドバイザー	真武真喜子	元 北九州市立美術館 学芸員 インディペンデントキュレーター
12	コーディネーター	西 恵美	熊本県、市手をつなぐ育成会 会長
13	コーディネーター	土井 章平	野々島学園 理事長

社会福祉法人愛隣園 事務局

	役割名	氏名	所属
1	理事長	三浦 一水	社会福祉法人 愛隣園 理事長
2	事務局長	三浦 貴子	障害者支援施設愛隣館 総合施設長
3	事務局	田中 裕一	障害者支援施設愛隣館 副施設長
4	事務局	富田 芳博	障害者支援施設愛隣館 事務長
5	事務局	納富 久	障害者支援施設愛隣館 総務部副主任
6	事務局	堀田 直美	障害者支援施設愛隣館 総務部副主任
7	事務局	久武 康博	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部主任
8	事務局	松本 薫	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
9	事務局	三角 淳子	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
10	事務局	北谷 知明	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
11	事務局	櫻間 靖彬	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部



障害者芸術文化活動支援センター@熊本

愛隣館

A

Art Brut Partners Kumamoto